

總會の記

人形芝居と蓄音器の豫告に、ここさらの期待を以て誰もが待ちかまへた總會の日が來た。雨がちな今年の初夏にはめづらしい晴れやかな午後であつた。思ひきり繁り合た藤棚の上にも、若い青桐の葉にも夏近い日の光がさしてゐた。

會場は急に變更されて幼稚園の遊戲室になつた。定刻を少し過ぎる頃來會者は室にあふれ廊下にまで席を延長した。まづ茨木會長の開會の辭に次いで倉橋主幹の報告があつた。

「會計の報告は此處で數字を讀むのに時間を費しますよりもあちらに書いて貼り出して置きましたから御覽を願ひます(二五二頁參照)其の中で臨時費が際立て多くなつて居りますのは昨年五月に兒童愛護の宣傳を致しましたので主として其爲に費したものであります。協會の仕事と致しましては本年は唯今申しました兒童愛護宣傳の外には殆ど報告致すべきほどのものを持ちません。然し本年は例年夏期に於きまして開かるゝ文部省の保姆講習會につぎまして、律動遊戲の講習を土川先生に

願て致します。次には只今會長のお話にも出ました處の雜誌の件でありますが本會の機關雜誌として月々出して居ります「幼兒教育」は内容の不完全な爲に方々から屢々御不滿やら御小言やらを伺ふのでありますがその實際に當りましては切り抜けなければならぬ經濟的な問題も伴て止むを得ずこれまであつた狀態を續けてまゐりました。しかし時代はあの雜誌をいつまでもあのまゝにはすこさせませんので七月からはページ數も倍にし内容をも充たす様により善いものと計畫を進めて居るのであります、處で御報告は自づとお願ひに變るのであります。が良くなる條件としてはよく出るといふ事が伴はれますので丁度この内容の充實を機會として少しでも廣く讀まれるように、從來よりも更に多くの讀者のある事を望むのであります、幼稚園全般には只今の處では行き渡り居る様であります。が更に家庭の方面に又小學校の幼年教育に又社會事業の方面にも是非働かけて行く様にしたいと思ひます、かくしてその行き渡りま

すひろがりを多方面にしたいと思ひます。それには會員諸君が直接に御盡力下されば大層よいと思ひます。御報告がお願に變た事をお許しを願ひます。

報告が終ると直ぐ大島教授の「社會と自分」といふ題目の下に約一時間に亙る講演があつた。少憩の後直に多くの期待を前にレコードが靜かに廻り出した。

1、はミスマルドンの「ABC」

「これは藝術とか音楽とか云ふ意味とは違ふ、明瞭な發音を幼兒の耳から入れようとする爲めで、語學の第一歩として正しい發音を聞かせる爲に家庭に於ても用ひらるゝのでこれなどは西洋ではごく赤ん坊に近い程小さい子供に用られて居る、これはまだ店頭に出ないさうである(近々に出るとの事)から」と云ふ様な説明があつた。

2、は、「小川」と云ふ題、

「ハーブにかゝる伴奏のついたもので、これは自然の音を模したところからごく子供に近いもの、あの單純な子供の中へ最もよくは入り得るものとして此の幼稚園でも多くの子供から喜ばれて居る、」この事

で、踊るような、ささやく様なメロディーに石の多い谷合の清い流れや廣野の小川を繪のように思ひうかべて聞き入た。

3、はショパンのマヅルカ、

「木琴の名手ライト氏によるもの。」

で快よいリズムミカルな音律に明るみへ踊り行く様な思ひがした。

4 はメンデルソンの「春」をデンバリストに依たものの、

「藝術的にあまり高いものは或はあの單純な兒童には、合はなくてはなにかしらといふ成人としての心配があります(本當は合ふのでありませうが)その様な深刻なところや複雑さを持たないでしかも藝術的な價値の充分にあるもの、そしてたしかに子供にふれ得る、は入り得るものとしてこれを舉げる、ことにメンデルソン獨特のおだやかさ平和な音律は實際子供達から喜んで受けられて居る。今、市場で兒童用レコードと呼ばれてゐるものはあまりに我國音樂の貧弱なことこの恥しい證とも云ふべきものである」と。

若草の野を思はせた春の曲に香に、みちた花園や小鳥の群を夢みて聴衆はしばらく吾を忘れた。

5. はペーンベトンの第五シムフォニー。

「これは純藝術のものであつて然かもごく高いのである此の内に含まれた崇高な宗教的深遠な哲學むづかしい意味はとても子供には理解^ワ解らないのでありますがそのずつと優れた藝術があつたと單純な子供の中に共鳴を得るであらう、最高の藝術は天才的に藝術の富豊を持つ子供には理解^ワ解り得るといふ幾分か冒險的の試として之を幼兒に聞かせると、」なほ説明者倉橋主幹は次の様に續けられた。

近頃の教育で何が一番新しいかと云へば、教育に社會的要素と藝術的要素と持ち來すといふ二つであります。この二者は新しいのみでなく共に非常に重要なもので社會的要素即ち實際的現實主義と藝術的要素即ち理想主義とは後者にのみ脱するも現實味を失し前者にのみ傾く事も又不可であります廣い意味の教育もさうでありますが此の事はそのまゝ幼稚園の教育にも持て來られます。

又藝術を教育に持てまいりますに就ては其處に種種な問題が起りますが、理論として、創作と鑑賞の二つがあります。幼稚園は從來から創作に於ては製作なり畫なりが藝術的であり又其他全體として餘程

藝術的な雰圍氣の中にあるものであります、追々これが他の教育小學教育にも大に取り入れられて來まして殊に最近、童謡に劇に、詩に自由畫に於て盛にその傾向が表れて居ります。

然し藝術の鑑賞といふ事になりますと之を幼稚園以外の教育の實際に用ひる事は出来ない事ではありませんが容易く取り入れる事はむづかしいであります。創作は、或は藝術をぬきにしても出来る事であります。圖畫教育に於ては創作藝術の意味は當然に出て來るのであります——或はこれから切り離してその方法だけを教へるとしても然し鑑賞の教育に屬する方面は普通の教育の中に入れる事は困難であります。之は特に注意し、特に試るのでなければ出来ません。

この鑑賞教育の例として、此處に蓄音機と人形芝居の二つを擧げるのであります。

「藝術教育とは何であるか」、と云へば其第一義は藝術の持てゐる獨特の力をそのまゝ教育に借りようと云ふのであります。それは藝術化と言ふ言葉の決して用ひる事を許さないほど高いものであります。わかり易く云いますならば利用であります、これ

まで使ひなれた意味で考へては、利用と言ふのは勿體無いほど借りて來ると云ふ事なのであります。藝術、それは化せられ得る様なものではありません。

藝術の獨特な力には種々ありませうが、吾々の心を高めて行く或は純粹化して行く、智にとらはれた重苦しい感じからとびあがる様な、翔化活動と純化活動とは到底他のものには出來ない力であります。

自然は吾々にこの純化を致しますが、自然は、やはり地のものであります。人が自分の友に、自分の方へ伴れて來ようといふ氣持を持つものであつて、藝術の様に翔化する事は出來ません。しかも自然は長く見てゐる中に我々はそれにマヒして仕舞ひます。

吾々を高めてくれる意味に於て最も高いものは宗教であります。宗教は、伶俐や正しい事の爲にあるのではなく、伶俐は智で出來ます。正しい事は道德で出來ます。然し智も道德も及ばない處へ宗教は吾々を引き上げます。

處が宗教は其の極地は信仰でありますが、其の入口には自分を標準した理智が邪魔をして居ます。砂の中を通りぬけた水の美しいと同じく極地の偉さは

あるがそのは入口にある智力の高さを豫想しなければなりません。この宗教、自然の二つに對して、藝術の力は、そのマヒの力を引き去り、宗教の門戸に横はる理智の難關を取り去て、直に人間の或處へ向から誘て來るのであります。人間の中に浸み込んで來るのであつて、宗教の様にこちらから求めては入るのとは異ひます。宗教と藝術の相違がこの點に存するのであります。蓋し瞬間を樂むのは藝術の宗教に對して持つ處の弱點でありませう。

吾々の力は實に吾々きりであります、自然と藝術と宗教、この三つを背景とせずして吾々に何が出來ませう。

授この三つを幼稚園に持て來るにはそれ々の困難さがあるのであります、今日用ひました處の蓄音機は、ただこれ丈の簡單な設備で容易に藝術をさながら持て來られ得るといふ點で非常に幸福であります。

メンデルソーンの曲をデンバリストによつて奏でられたといふ大藝術家の曲、大藝術家の演奏をさながら持て來るといふ事の爲に蓄音機は、一蓄音機でなければさういふ事が出來ないから——大層よいもの

であります。蓄音機が藝術教育の手段として用ひられます時に、決して面白いからといふのではありません。之でなければ藝術をさながら持來す事の出来ない、之のみがそれを爲得るよい物であるからであります。私共は幼稚園で日をきめ時間を定めて小數の子供に聞かせます。この藝術鑑賞の時に、我々が藝術をどうするのではありません。我々に出來ない我々の及ばない或事を、この藝術丈には爲てもらへると云ふ事を信じて致します。役に立たせる正しくならせるといふのではありません。人間性を離れた高さ清さ、それを幼兒に向けようとする時には藝術の力に俟つより外はありません。私共は蓄音器を使ひます時に、それは一種の高め、清め、そして、殿堂の如き心持で居ります。更に補助としての建築藝術を望むのでありますが、それは直ぐに實現出來るものでもなく、又音の藝術がその缺陷をも補ひ得るものとまで信じてして居ります。

我國の教育には、かような意味の高める事、清める事が考へられて居りません。從來は多く之を宗教家にゆだねてまゐりましたが、現在吾々は之を宗教家にのみゆだねべきでありませうか。

これは、あの單純で居てしかも、成人より案外高い處に居る幼兒期に於てはじむべきものではないか、と思ふのであります。

其實際の方法も他の教育におきましては、ことさらそれが爲に計畫し時間を作るといふ様な實行上の問題が伴ひますが、幼稚園の教育に於きましては當然に、容易に之を致し得るのであります。

藝術鑑賞が自然のマヒから避け宗教の難關をくぐらずに、すなはに幼兒を高めと清めへ導びく他に、其處には想像を活動し自在に動く機會を持ち來します。ここにあらゆる方面から窮屈な現代の教育のその中にあつて自在な我を持つものは藝術であります。藝術に依て我が自在な生活の中には入り得るといふ事、之をあの實際に於ても比較的自在な幼兒の生活に於て與へるこいふ事は意味ある事であります。人は事々に自分は之しか出來ないといふ不自由さ、弱さを感じます。これ今日の教育のすべての方面に於てある感じでありますが、しかし心に丈は存分な自由、自在感を與へる事が出來ると思ひます。それは人間性の理想的自由に向はせるのであつて、決して反動的な自由ではありません。從來は幼稚園の

お話に之を置いたのでありますが、お話が感服される時には既に其處には束縛があります。しかも言葉をして、お話には説明的要素がは入ります、説明は智の世界へと導きます。お話がいきなり對話で（説明ぬき）はじめる事が出来ればよいのですが、それは名人と云はれる話し家に見る處であつて吾々お互が致します時にはまづ説明が主な入り口であり主な部分であります。これは文學が劇にかはる順序であります。かういう考へ方から、鑑賞の意味で、私共が子供の前で芝居をする事もよいのでありますが、芝居では人間が妨げになります、「武士の風をしてゐても、いやほんとはあれは某先生だ」といふ事をすぐ見ます。某といふ個性が武士になりきる事が出来ません、某即ち人間といふ邪魔者を引込ませて何か、それになりきれぬ物にかへようとする時こゝに人形が出て来るのであります。人形には個性がありません、その意味で人形は一種のマデックなものであります。顔を色どらないでも、細い説明的な手数を煩はしませんでも武士らしい形で、子供はその人形を武士と思ひます。此處に人形芝居が原因して居り、實際幼稚園の子供達から迎へられて居

るのであります」。

と説明終てやがて人形座の幕はあげられた。

舞臺は洞のある古い大銀杏を近景に岩山である、墨繪の背景からして時は暮れ方と思はれる。大夕立の中をお爺さん（紙人形）が大急ぎでほら穴にかけこんだ。夕立止んで、すつきり浮んだ三日月、物凄しい山の背に鬼の集合、爺と鬼との對話、レコードが廻て踊りの場面、やがて瘤をさられて爺が家に歸るまで、一幕の人形使ひは倉橋主幹、破れる様な拍手を以て幕は下された。さらでだに此日はせまい感じのした室内の右に左に前に後に各方面からの寫眞師は或は舞臺を或は聴衆を思ひ／＼のレンズに納めて行た。

再び幕上て、人形座の座主と自稱の手踊り人形は一座に代てお禮をのべ續いて一同を別室へ招じた。

この人形のおじぎの尤もらしさ、と自分で拍手した時に斜に兩手を動したのどに、こぼれるほどの愛嬌は再び一同の拍手を湧かした。

遠來の友をむかへ、久かたぶりでの思ひ／＼の語らひにしばらく時の移るのを忘れた。（六月二日K子記）。